

<おとなの方へ>

「ワクワクのつくりかた」のつかいかた

「知らない」という社会のワクをなくして、
みんなでワクワクするための絵本です。

この絵本は、「かわさきオープンエアプロジェクト」が作りしました。

「かわさきオープンエアプロジェクト」とは、障害について「知らない」というワクをなくし、だれもがワクワクできる「オープンエア」な社会を実現するプロジェクトです。

障害者支援に関心はあるけれど、関わる機会がない。機会があっても、どうサポートしたらいいかわからないという人は少なくありません。障害があるのは、人でなくて、社会。そこには「知らない」という障害からくる、「不安」や「誤解」があるのです。

そこで、「知らない」というワクをなくすために、この絵本をつくりました。たとえば、みんなでスポーツをしたいとき、みんなと同じようにできない人がいたらどうしたらよいか、などの例をあげながら、だれかを「助けてあげる」のではなく、みんなで「一緒に楽しむ」方法を考えていきます。おとなの方もぜひ一緒に、「ワク」をなくして「ワクワク」する時間をお楽しみください。

◆読み聞かせのポイント

◎感情をこめなくても大丈夫

ゆっくりと、聞こえやすい大きさの声で読んでください。セリフなどに感情をこめすぎると、かえって子どもたちの集中力をそいでしまうことがあります。子どもたちの想像力にまかせて、普通に話しかけるように読んでください。

◎途中で、「あそびを考える」コーナーがあります。

ボールやラケットなど、ふだん使っているあそび道具をご用意ください。

◎ぜんぶを理解できなくてもOK

大切なことは、障害のことを「知らない」ままにしておくのではなく、「知ろう」とすること。そのきっかけになればOKです。

<対象>小学校3・4年生

<各ページの工夫>

読み聞かせのご参考に、ぜひお読みください。

表紙

カラフルな「ワクワク」の文字、その元となっているのは、実は「ワク」です。全編にわたってこのワクの絵を象徴的に使用し、子どもたちに印象づけていきます。

2ページ

主人公の「そら」くんが登場。丸いワクに囲まれています。

3ページ

右のそらくんは、ワクがなくなっていくイメージを表現しています。

4ページ

友達の「ひろ」くんが登場。目が見えないという障害があります。

5ページ

まっくらな状態でも落ち着いているひろくんと、不安になっているそらくん。その違いを伝えています。

6 ページ・7 ページ

ワクのある友達、ワクがなくなっていく友達。その違いを見せるページです。

8 ページ

そらくんとひろくんが持っているのは、ワクのかげら。ワクをひとつずつはずして、ワクワクしていく二人の様子を表現しています。

9 ページ・10 ページ

別の友達「りく」くん登場。りくくんの背中からのアングルで、りくくん側の目線になって考えるようにする狙いがあります。

12 ページ・13 ページ

見開きで大きく楽しくわかりやすく、ワクがなくなった瞬間を伝えます。

14 ページ～20 ページ

ワクワクをつくるための3つのヒントを紹介します。

オープンエアプロジェクトにおいて、誰もが楽しめるプログラムをつくるための基本理念として「対称性」「相似性」「循環性」があり、これを「はんたい」「にている」「つづける」と言い換えて解説しています。少し難しいかもしれませんが、ここでは「いろいろな方法がある」ということが伝わればOKです。

21 ページ

ここで、ふだん遊んでいることを例に出しながら、たとえば目が見えない友達と一緒に遊ぶならどうするのか、みんなでアイデアを出し合います。そのときに、3つのヒントを参考にしていきます。

★実際に、一人が目隠しをしたり、いすに座るなどして障害のある子の役割を担い、ボールなどの道具を使うことで、さらに実践しやすくなります。

「いすから立てない子とボール投げをしたい。どうしよう？」

「じゃあ、みんなもいすに座ったらどうかな？」

★障害のある子を特別扱いして「助けてあげる」のではなく、みんなで「一緒に楽しむ」ことをめざします。

★いいアイデアが出なくても構いません。「何か工夫すれば、一緒に楽しめるんだ」ということに気づけばOKです。

22 ページ・23 ページ

みんながワクワクした状態で遊んでいる様子です。ワクのかけらを道具などに使い、「ワクをないから、ワクワクできる」状態が楽しいことを印象づけています。

ワクをなくしてワクワクをつくるために、

ぜひこの絵本をご活用ください！

かわさきオープンエアプロジェクト